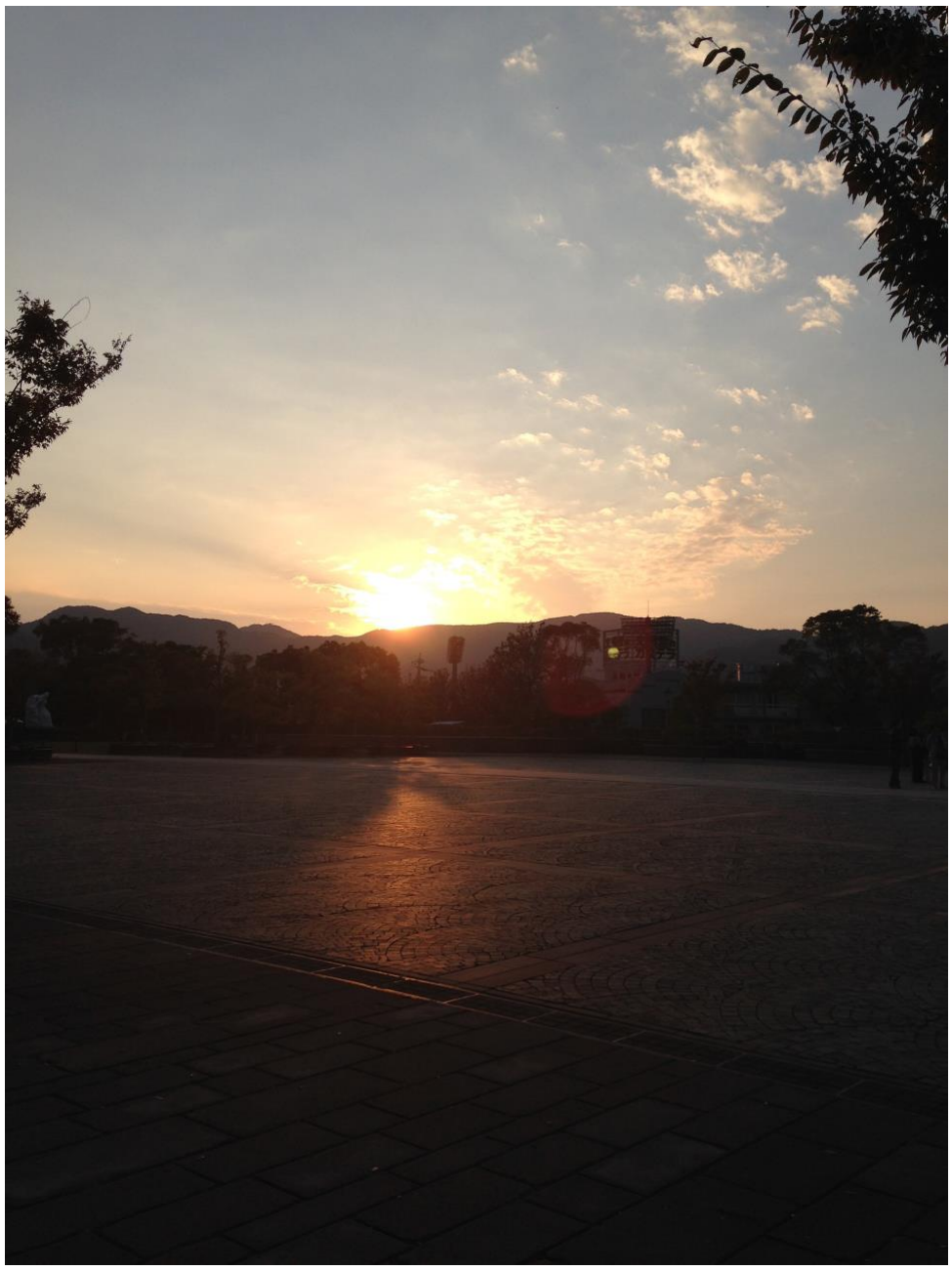


夕日

「今日も一日お疲れ様」

そう労ってくれているような

夕日の光を背に浴びて

歩く帰り道

この心地よい光が

明日をがんばる活力になる

demain

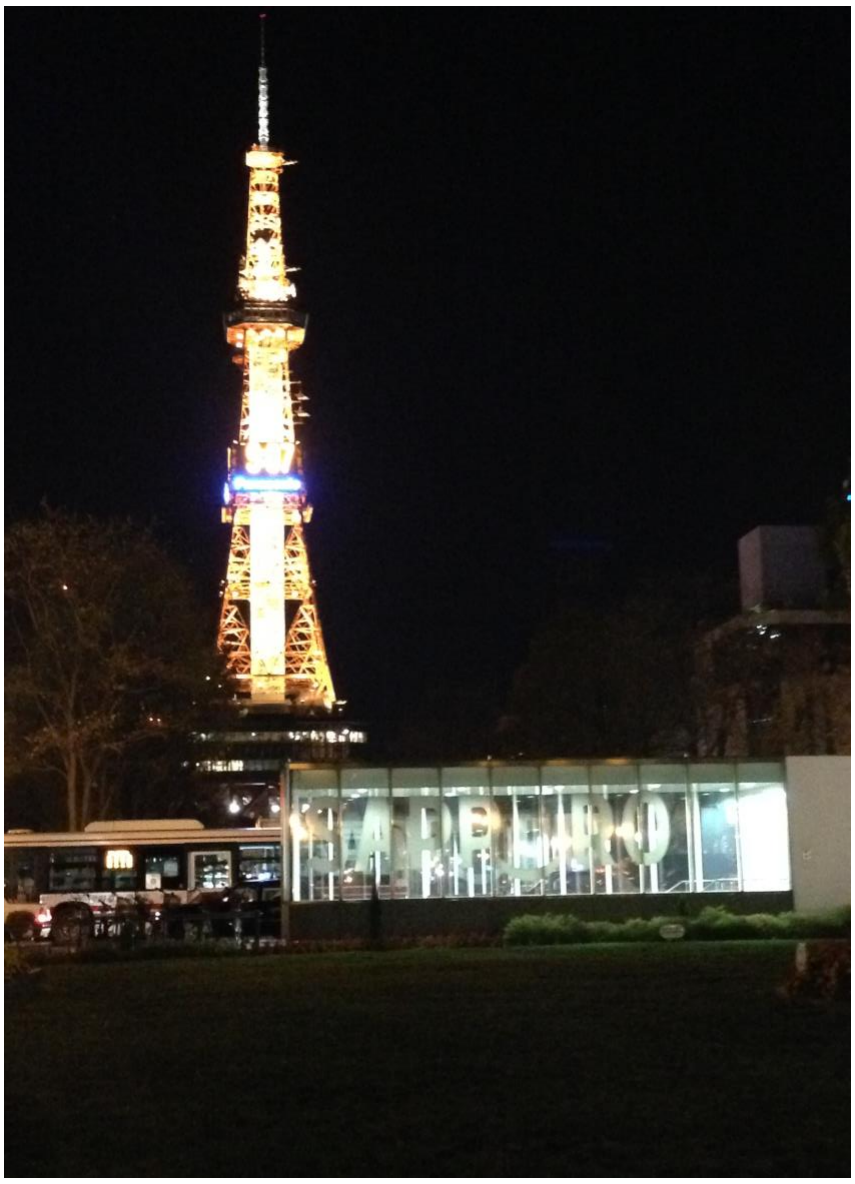
咲

未来のハナはどんな形でどんな色かな

私らしいハナを咲かせよう

Mars

明るい夜



私は星を見に外へ出た。

人は家族のために働いている。

私は星を見に外へ出た。

人は電気がキレイと言っている。

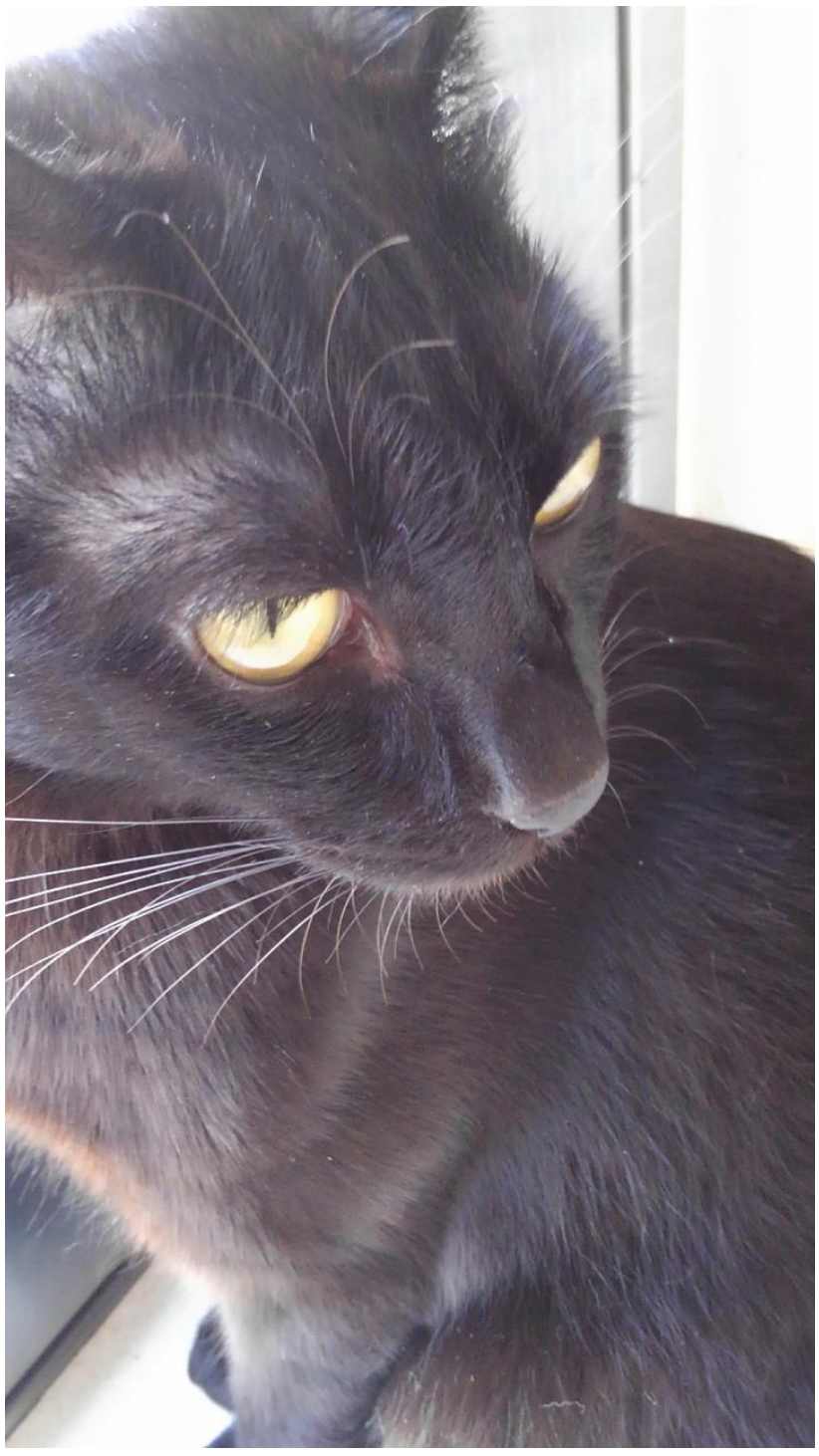
私は星を見に外へ出た。

あとどれくらい待てば

夜空に星が光るのだろう。

Clara

僕の見ているもの



僕は見ている

人間たちが小さなことで傷つき

意味のないことで争い

1 人淋しく泣いている姿を。

僕は見ている

そんな弱い人間たちが

小さな幸せを糧にして

今日も一生懸命生きている姿を。

君はこの世界で何を見ているのだろうか？

magique

美しさのあかし

もし私の瞳がカメラだったら

私は一日に

何度シャッターを切るだろう

そうしたら、きっと私は

地球さん

あなたの瞬きを撮ってみたい

mon ami

雪夜

雪が降った。

私の記憶の中では一番深い雪。

静かに静かに夜の闇を白い世界へと変えていく。

couleur

向日葵

いつも明るい太陽の方を向き、

そこにいるだけで周りに元気を与える。

そんなあなたのような存在に、

私もなれたらな。

今日も元気をありがとう。

Soleil

夜の街

今日という日が終わろうとしているのに

皆働きものね。

昔は光なんてまったくなかったのに、

今は真夜中でもまっすぐに道を歩けるほど

この街は明るいわ。便利なものよ。

でもね、私は真っ暗闇の中

虫の音や川のせせらぎを感じたりする

皆がうらやましかった。

もうそんな風景は見られないんでしょうけど。

amour

白い湖

カナダのノースベイにて。

一面の銀世界が広がる湖。

いつもとは違う顔を見せる。

私たちが歩いている下には、

魚が泳いでいるなんて。

montagne

野良猫

さまよう..さまよう..

行く当てもなくただひたすらに歩く

なんと退屈で自由なことでしょう、

この地球は

ミルフィーユ

7 × 2

空を２つに割る、

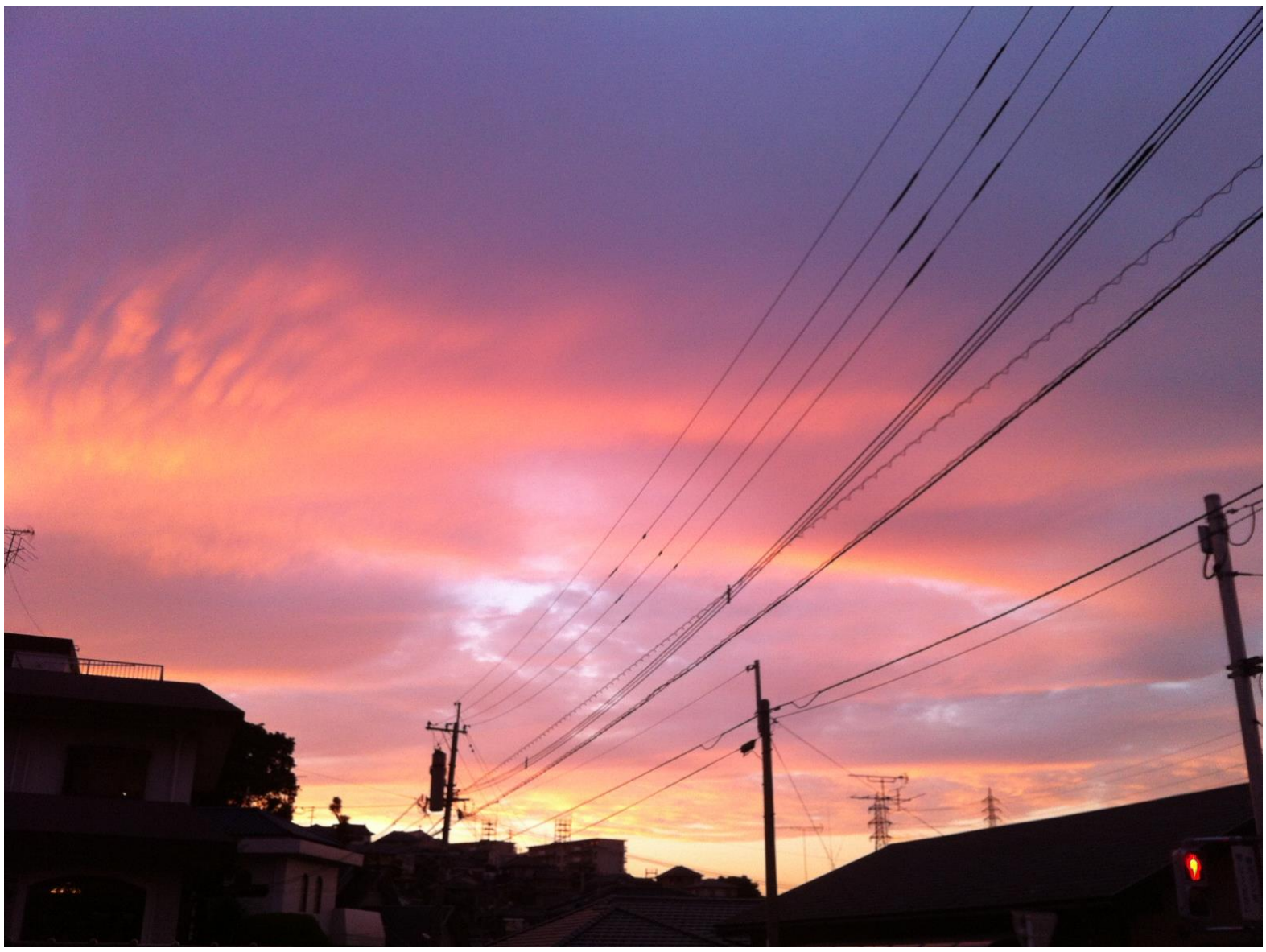
カラフルなライン。

手を伸ばせば届きそうな

鮮やかなカラー。

あのふもとにはきっと…

jasmin



帰り道

表現できない綺麗な空

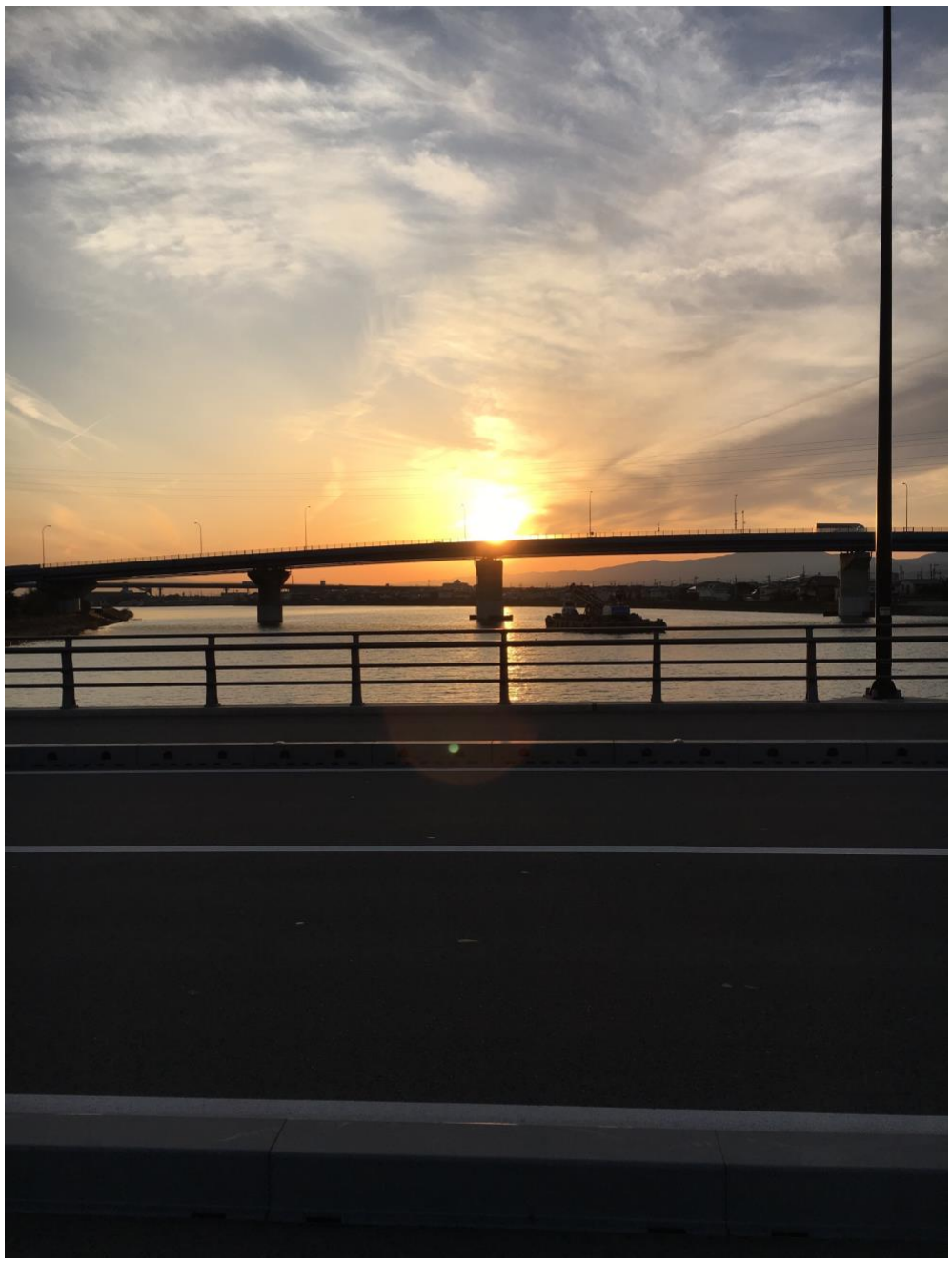
この空は二つとない

毎日同じ空を見ているようで、本当は違う

同じような毎日も、本当は違う。

どの瞬間も大切にしよう

printemps



Soleil couchant

何かが終わるということは、何かが始まるということ。

終わりはいつも悲しいだけじゃない。

次を始めるために、今を終わらせる。

太陽だって同じなんだ。

明日を始めるために、今日が終わっていく…

fermaf

生命

私は生きている。

生を終えると私は消えてなくなる。

そんな私にかまわず新しい花が

次へ次へと咲く。

それが生きた証かもしれない。

Perle

色とりどりの花

色とりどりの花。

多くの緑の葉っぱと共に

ピンク、紫、黄色、オレンジ、などの色がなっていることで

より一層見栄えが良い。

この花を見ることで、晴れ晴れした気持ちになれる。

落ち込んでくすんだ心をも

きれいにしてくれる、

そんな花が私は好きだ

アイ

車の気持ち

ここは福岡大学の駐車場。

僕の仲間である数十台の車が、

互いに正面を向き合って停まっている。

僕が出す排気ガスのせいで

環境を汚染してしまってごめんなさい。

だけど、どうして僕らは

環境汚染のレッテルを貼られるのだろう。

本当は僕たちも

人間より自然に貢献したい。

Porsche

気分屋

強引な手に連れ出された午後の日。

前を歩く母が足を止めた。

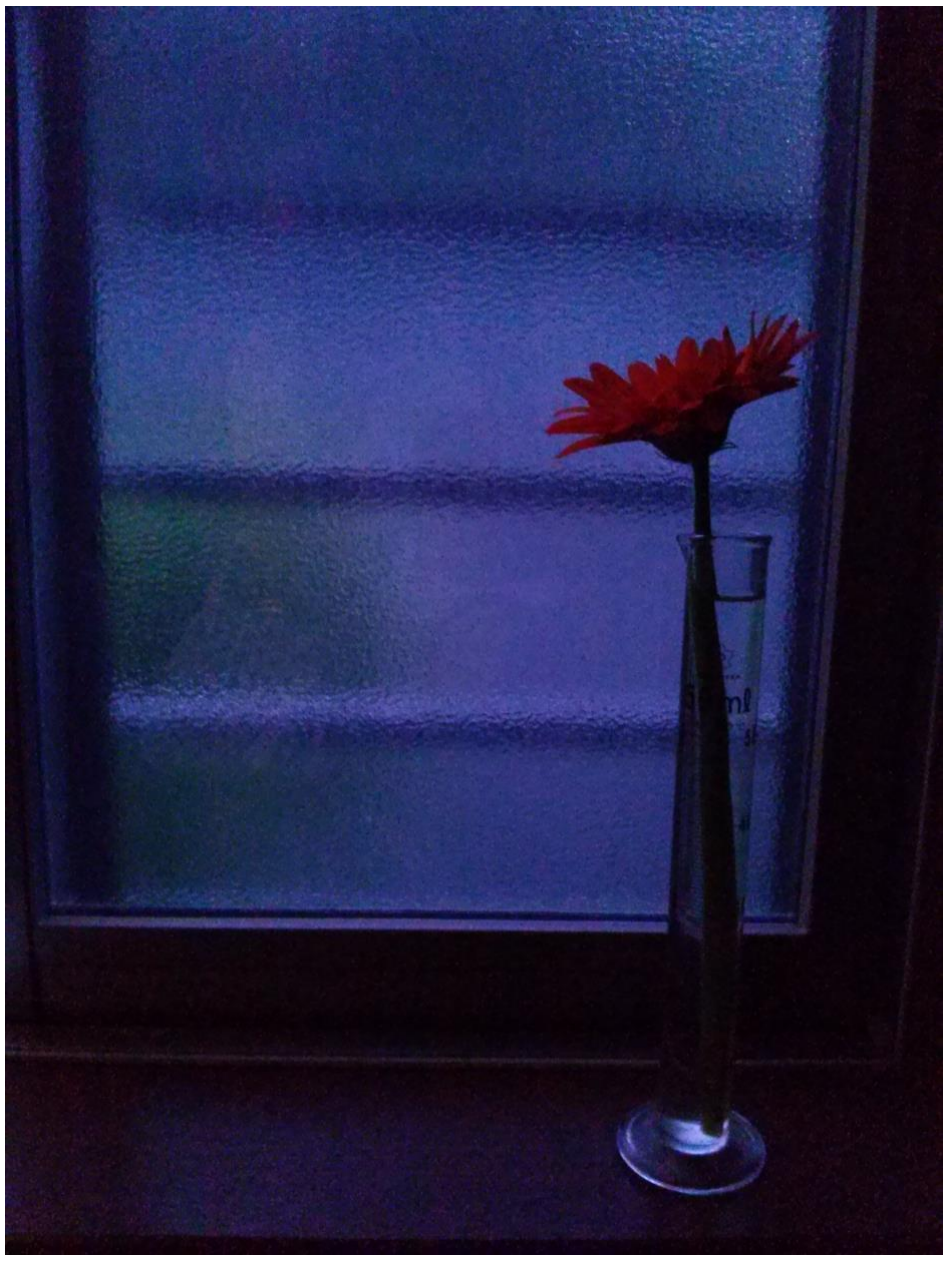
俯き　少し後ろを歩いていた私も

うっかりと顔をあげてしまう。

――あざやかで、あたたかな、初夏の日。

もう少しいじけていたかったのに。

Farbe



深夜三時半頃。

メスシリンダーに挿した花から

一枚残らず花弁が消えてしまうのは

一体いつの話だろうか。

待ち詫びる。

隣に君がいないから。

Farbe

夜景

昔から変わらないこの景色

それでも社会は移り変わっている

このまま私も変わらないでほしい

ドイツマン

汀（みぎわ）より

汀の近くに立つと、潮風がそっと頬を撫でる。

空の青を映した今日の海は満ち潮だ。

まるで揺りかごのように寄せては返す波、たゆたう小さな漁船の群れ。

時の流れの穏やかなこの町にも、息づく人々の刻まれた時間がある。

そして、遠く離れた誰かの帰りをずっと待っているのだ。

ゆっくりとさびついていく時間に微笑みを浮かべ、

外に憧れた若者たちを見送りながら、ずっと。

故郷を思い出す時、いつも少しだけ私の心にしょっぱさが残る。

M.Reinhaus

芳香の作り手たちへ

香ばしい匂いが鼻腔を抜ける瞬間、このコーヒーの故郷

――遠い灼熱の大地に想いを馳せる。

地球の裏側で実を育て、豆を取り出す人。それを焙煎する

人。

そうして出来上がった一杯のコーヒーを頂く私。

私は彼らの名も知らぬ。

彼らも私のことなど知らぬ。

それでも彼らの生業(なりわい)に

私は今日も癒される。

それをどうやって伝えよう？

「ハロー、ハロー、私はここだよ。」

「あなたの仕事に元気をもらった私は、ちゃんとここにいるよ。」

伝わらぬならせめてもと、カップの縁にくちづけた。

M.Reinhaus

桃色

晴天の下、春が生み出す景色。

満開の桜もきれいなものだが、

散った桜による絨毯も地球を彩るきれいなものだ。

Kirschbaum

青空

陸から空へtake off。

見慣れた景色は、みるみるうちに小さくなってゆく。

気がつくと、あんなに高くにあった雲の上にいる。

そして気づかされる。 自分の悩んでいることの小ささに。

どうやら雲には全てお見通しのようである。

よし。明日も頑張ろう。

schön

行ってみないとわからない

ここは魔法の箱。

橋を通る誰もが足を止め、その絶景に魅了される。

息を呑むほど素晴らしいこの景色に欠けていいものなんてない。

光り輝く緑、澄んだ水、生き生きとした幹、

そしてひっそりとたたずむあの鳥も。

Katze

命の源

プカリ…そしてまたプカリ。

水と酸素が浮かんでくる。

これは大分にある白河水源の写真だ。

水源からふわりふわりと

出てきた小さな水の輪は水中を泳ぎ、

空気にふれた途端に大きく波打って広がる。

「あぁ…なんて神秘的なんだろう。

まるで人間の命みたいだ。」

私は思わず見とれてしまった。

Licht

憧憬

いつもの帰り道

いつもの風景

いつもと変わらないはずなのに

ぼんやりと見上げた空は

泣きたくなるくらい

美しかったんだ

Brille

春の恋

わたしは、酸っぱいあなたが嫌いだ。

冷たくされると悲しくなるから。

わたしは、甘い香りを漂わせるあなたが嫌いだ。

優しくされると忘れられないから。

わたしは、甘酸っぱいあなたが大嫌いだ。

だってその味はあなたとしばらく会えない合図だから。

次会えるのは、来年の春かな。

またね。

ごちそうさまでした。

Reue

風船

みんなの心も足どりも

風船のようにまあるくふわふわ

さあ道をあけて

今日の主役のお通りよ

Papagei